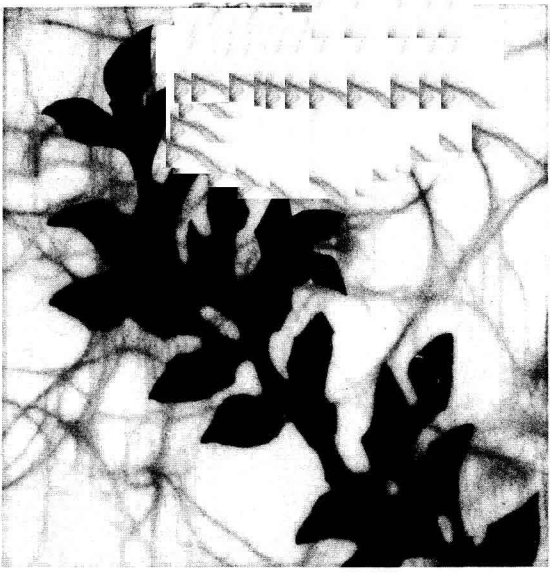
サラリーマンの設計

源 氏 鶏 太



東 方 社 版

サラリーマンの設計

（乱丁・落丁の場合はお取替え致します）

昭和四十一年八月十五日発行

定価三九〇円

著作者　源氏鶏太

発行者　石渡磨須子

製版者　内田柳次郎

東京都文京区高田豊川町六〇番地

発行所　東方社

振替東京五七七七四番

電話（九四三）四四二一～四番

（印刷・邦文堂印刷所）

© 1966 Tohosya Printed in Japan

サラリーマンの設計

源氏鶏太

目次

第一部　サラリーマンの設計

新入社員心得　七
サラリーマン生活　一〇
サラリーマン七つの生態　一六
あたらしくBGになる人に　三三
サラリーガールの場合　三九
社長を尊敬しよう　四一
あんな男が　四六
社長のタイプ　(1)　五一
社長のタイプ　(2)　五六
社長のタイプ　(3)　六一
社風の研究　六六
遠交近攻　七一

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

戦国時代の教訓　七五
跳躍力　八〇
社長を批判しよう　八五
サラリーマン十戒　九〇
サラリーマン五箇条　一〇二
サラリーマン夫人五箇条　一一一
サラリーマン奥様論　一一五
一等サラリーマン　一二二
社員根性　一三五
サラリーマン夫人の十戒　一四〇
サラリーマンと新聞　一五一
サラリーマンと伝統　一五四
サラリーマンと映画　一五八

第二部　青春の設計

娘の幸福のために　一六五

勇気ということ　一六九
孤独について　一七三
服装について　一七七
親友について　一八一
理解するということ　一八六
劣等感について　一九一
苦労しておくこと　一九七
ユーモアについて　二〇二
趣味を持つこと　二〇七
物の考え方　二一三
恋愛と結婚について　二一七

装幀　赤坂三好

第一部　サラリーマンの設計

新入社員心得

世の中に、新入社員ほどいじらしいものはありません。毎日おどおどしていて、本当に可憐の極みです。そのかわり、不敵な面魂をして、悠々と社内をヘイゲイしているような新入社員ほど、小憎らしいものはありません。あん畜生、覚えていろよと云う気持になります。だから新入社員諸君は、出来るだけ、おどおどして暮した方がいいのです。当分は、物嗤(ものわら)いの種になるくらいの大覚悟が無いことには、出世の妨げになります。勿論、バカらしくて、すこしもおどおどする必要が無い場合でも、そこは要領です。芝居をしてやるのです。そうすると、うん、可愛げがあつてよろしい、と云うことになつて、あとの一生が暮しやすいのです。そのかわり、そんなあとで、周囲に誰もいないことが確実だ、と充分な見きわめをつけたら、ペロリと舌を出してやるのです。それで聊(いささ)かの溜飲が下る筈になつています。

さて、君は今、社員の中で、いちばん下つ端なのです。給仕だつて、当分は先輩顔をしてみせるでしようから、ここ一年間はすくなくとも次の新入社員が入つてくるまでは、目に触れる限り、みんな君よりも偉いのです。誰彼の見さかいなしに会う人ごとにやたらに頭を下げていればいいのです。そ

れが分相応のエチケットだと云うことになつているのです。悲しいでしよう。残念でしよう。しかし君はすでにサラリーマンになつてしまつたのだから、そこは我慢しなければいけません。

ところで、新入社員諸君は、入社の一週間ぐらいは、恐らく五里霧中でしよう。ただおろおろしていてもいいのです。しかし一週間も過ぎると、そろそろ仕事を命じられます。ところが仕事なんて、懇切丁寧に指導してくれるものと思つてはいけません。たいていは、何かむずかしげなことを早口でベラベラと喋つて、君分つたろう、では早速やつてくれ給え、と仕事を押しつけられるものです。恐らく、君はちつとも分つていないでしよう。分らないままに、仕事をはじめるから、失敗する、見事に失敗するのです。だから、はじめに絶対に納得がいくまで、しかも、あくまで慇懃に、相手をおだてながら訊き返さねばなりません。しかし、それでは君は毎日のように、失敗を繰返すでしよう。そう云うものなのです。そこで、君は先輩社員から、ダメだなあ、何んにも出来んじやないか、と軽蔑の眼差しで、じんわりと眺められるのです。それが新入社員の宿命です。本当に同情します。ペーソスが溢れています。

しかし、君はここで自信を失つてはいけません。心を落ちつけて、上は社長から、部長、課長、係長、そして先輩平社員たちの生態を眺めてみるのです。恐らく、一見、誰も彼も、素晴らしく、有能に見えるでしよう。とても、自分なんか逆立ちしても、あんな風にパリパリと仕事は出来ない、と絶

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.co

望的になるでしょう。しかし、更によく見てごらんなさい。要するに、みんな毎日、同じ仕事をしているのです。一年も同じ仕事をしていたら、バカでもやれます。驚嘆してはいけません。

最後に忠告。重役の前にいつて、身体がブルブルふるえるような人は、その重役が雪隠に入つている時の姿を想像することです。

サラリーマン生活

私は二十年に及ぶ自分のサラリーマン生活を振返つてみて、運がいいほうであつた、と思うことがよくあります。

勿論、仕事の上で辛かつたり、腹が立つたりすることはしよつちゆうでしたが、上役や同僚に恵まれていたからです。上役や同僚に恵まれていたらサラリーマン生活も、そんなに悪くないと云う結論を出してもよいとさえ思つています。その反対に、そんな幸運に恵まれなかつたら、その日々は、すこし大袈裟に云えば、この世の地獄、であるかもしれません。

仕事熱心な若いサラリーマンが、お酒に酔つぱらつて、

「人生、意気に感ずです、課長！」

と、感激的な口調で云つているのを、よく見かけます。いい上役に仕えたら、実際にそんな気になるのです。張り切つて、仕事に熱中する気になるのです。仕事に熱中できる幸福感は、また、格別なものです。サラリーマンをしていて、いちばん嬉しいのは、仕事が一心不乱にやれて、毎朝、会社へいくことが愉しくて仕方が無い、と思えるときです。生甲斐を感じるくらいです。恋愛に成功した時

の歓喜とは違つて、仕事に生甲斐を感じられる歓喜には身心に充実感があつて、自分自身が何か颯爽と見えてくるのです。そんなサラリーマンの姿ほどたのもしくて、嬉しいものはありません。女も惚れ惚れしてくれます。こう云うサラリーマンの姿が、小説にあまり出てこないのは、大変残念です。

ひとつの課の雰囲気は、その課の課長さんの性格に支配されると云つても、云い過ぎでは無いのです。応揚で、仕事熱心で、責任感が強く、しかも、部下を信頼する心の厚い課長さんがあつたら、その課の成績は、みるみる上るに違いありません。病人だつて、出ない筈です。課員全体の血色がよくなるに違いありません。

そのかわり、ひねくれて、意地悪で、自分が不熱心な癖に、部下には仕事熱心を強要し、責任回避の常習犯、しかも、暮夜に貢物を持つてこないことには、昇給に差をつける、と云つたような課長があつたら、その課の成績はみるみる下ります。部下がみじめです。薄給の中から、やけ酒を飲まずにはいられなくなるに違いありません。病人も出るでしよう。部下にとつて、被害はあまりにも甚大です。

だから私はときどき思うのです。

社長さんにしろ、部長さんにしろ、課長さんにしろ、すくなくとも、長と名づけられるひとは、いくら個人としての仕事振りがよくつても、ひねくれていたり、意地悪であつたり、ねちねちしていたり疑い深かつたりしていたら、その資格が無いのです。いや、そんな人を長にしてはいけません。部

下が困るばかりです。社会の悪徳です。すくなくとも「長」となるからには、それ相応の苦労をして、ある程度の酸いも甘いも嚙みわけてからでないと、部下が迷惑するばかりです。ところが、戦後にそんな部下を困惑させるような「長さん」が、非常に多いのでは無いでしょうか。勿論戦争前にもありましたが、近頃は、その比率がぐんと増加しているのではないでしょうか。もし、そうであつたら、ほんとうに困つたもんです。

同僚の中に、もし、憎たらしいものがいたら、それも不幸です、課長さんが悪くて、同僚にも悪いのがいたら、全く、やりきれません。泣きたくなります。あん畜生、殴つてやろうかと思います。それだけでも、不幸です。

だから、サラリーマン生活が幸福になるためには、第一流会社に入ることも大切ですが、上役や同僚に恵まれなければならない、と云うことになります。上役や同僚に恵まれるためには、先ず、自分が素直で、仕事熱心で、責任感が強くならなければならないかもしれません。共同生活です。なんだか、修身の話みたいになりましたから、話題を変えます。

私はたいへんパチンコが好きなのです。近頃、世間ではパチンコに対する論議が極めて盛んなのですが、私の周囲の人々、即ち、サラリーマン、そして雑誌の編集者は、たいていパチンコのファンです。いいものとは信じていませんが、と云つて、それ程、悪いものとは思つていません。この世の憂

さ晴らしと云つた味がパチンコにあるかも知れませんが、要するに手軽で、面白く、しかも、うまくいけば、煙草が貰えるのだから、ちよつとやめられません。

私は退社時刻になると、ああ今日もパチンコをして帰れると、もうソワソワしています。これは、一種の幸福感です。私は、会社の帰りに、たいていパチンコ屋へ寄るのです。パチンコにも、押し、引き、ひねり、といつた玉突きの要領があるそうですが、私はそれ程の研究心は無く、専ら、フロックを狙つています。フロックの多い日の御機嫌はたいへんなものです。そのかわり、スコンクであつてもすぐに忘れてしまいます。

私は夜、原稿を書いていて、どうにも気分が乗らず、クサクサしてならない時には、よくパチンコ屋へ気分転換に出かけます。雨が土砂降りのように降つていても、傘をさして、いそいそと出かけるのです。すくなくとも、パチンコの玉の行方を見つめている間は、無念無想です。

近頃、パチンコ屋に、女の客が増えているようです。流石に、一人で入つている若い女の姿は、あまり見かけませんが、そろそろ厚かましくなりかけた中年の奥さん連中の姿が、だいぶん増えているようです。御婦人層にファンを得たパチンコは、当分の間は愛好されるかもしれません。

パチンコの愛好者は、サラリーマンが最も多いのに違いありません。社用族ならともかく、現在のサラリーマンが、自腹で遊べるのは、パチンコぐらいでしよう。私はパチンコに制限を加えたり、廃

止させようと云う案には断じて反対です。あの、ザザッと云う音の快味は、特別です。何ものにも換えがたい味があります。しかし、自分でもちよつと困つたもんだ、と苦笑していることも、ついでに白状しておきます。

近頃、社用族に対する批難は、いよいよ激しいようです。全く、眼に余るものがあります。しかし、社用族がかくもバッコするひとつの原因に、私は税金が多すぎるせいでは無いかと思つています。どうせ、税金にとられるなら、いつそ、面白、おかしく、使つてしまえ、と云つた気持も、多少はあるのでは無いでしようか。

法人に対する税金は、法人税、事業税、住民税なんかを計算すると五〇パーセントを越すようです。千万円の利益金があつても、その中から、五百万円もの税金をとられるのだつたら、誰だつて、バカらしい気持になります。その五百万円を飲み喰いに使えと云う気持になります。現在の税制では、余程の会社でないと、社内蓄積なんか、思いもよりません。一晩の宴会にかりに十万円かかつたとしても、そのうち五万円は、税金であつて、会社が本当に腹を痛めているのは、五万円だけなのです。しかも、この五万円は、ギヴ・アンド・テークの法則によつて、何十倍かの利益を会社にもたらすのです。その何十倍かの利益のうちの五〇パーセントがまた税金ですから、やつぱり飲んで喰つた方がいよい、と云う気持になるのです。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.co